2 本市の基礎情報

（1） 本市の概況

①位置と地勢

本市は、滋賀県琵琶湖の東岸、湖東平野の中央部に位置し、西南部を野洲市、南部を蒲生郡竜王町、東部を東近江市にそれぞれ接しています。

市域は、東西17.0㎞、南北20.8㎞、面積は177.39km²（琵琶湖水面を含む。）となり、滋賀県全体面積推計値（4,017.36km²）の4.4%を占めています。

北部に長命寺山及び八幡山、東部に安土山、繖（きぬがさ）山及び箕作（みつくり）山、南部に瓶割（かめわり）山及び雪野山など標高200～400mの美しい山々があり、市域の中央部に白鳥川、東部に蛇砂川、長命寺川及び山本川、西端に日野川が流れ、それぞれ琵琶湖に流入しています。

北東部に広がる西の湖は、琵琶湖で一番大きい内湖であり、ヨシの群生地である水郷地帯は、琵琶湖八景の一つに数えられ、水と緑に恵まれた美しい景観と歴史風土に恵まれた地域です。

②交通の状況

●鉄道

市域の中央部には2つの鉄道路線（JR東海道本線（琵琶湖線）及び近江鉄道（八日市線））が通り、JR安土駅、JR近江八幡駅及びJR篠原駅の3駅は、東近江地域の玄関口となっています。

JR近江八幡駅までの所要時間は、京都から約30分、大阪から約1時間となります。

●道路

幹線道路は、琵琶湖に沿って南側に国道8号、中央部に主要地方道大津能登川長浜線、琵琶湖岸にはさざなみ街道（湖周道路）などがあり、それに直行して、県道安土西生来線、主要地方道大津守山近江八幡線、国道421号線、県道大房東横関線等がネットワークされています。

市域に近い高速道路ICは、竜王IC、八日市IC及び蒲生スマートICです。

●バス・旅客船

バス路線は、JR近江八幡駅を中心に放射状に広がる近江鉄道バスのほか、交通空白地を解消するために市民バス（あかこんバス）が運行されています。

旅客船は、堀切港と沖島を結ぶ定期便（おきしま通船）が運行されています。

（2） 本市の成り立ち

本市は、豊かな水と土壌の恵みを受け、古くから農業を中心に栄え、中世以降は陸上と湖上の交通の要衝という地の利を得て、多くの城が築かれました。

織田信長は安土城を築城し、この地を拠点に天下統一にまい進しました。織田信長の改革精神により開かれた楽市楽座は、豊臣秀次の自由商業都市思想に引き継がれ、八幡商人の基礎を築きました。また、豊臣秀次は、八幡山城を築城し、周辺に城下町を整備しました。八幡山城の城下町は、その後の八幡商人の活躍の舞台となり、今もなお整然とした碁盤目状の美しい町なみが残されています。このような歴史的背景から、市内には各時代を代表する歴史的資源が点在しています。

さらには、市北部の琵琶湖、日本で唯一の淡水湖に浮かぶ人が暮らす島である沖島、そしてラムサール条約の登録湿地である西の湖と琵琶湖八景に数えられているヨシの群生地である水郷地帯など、唯一無二の自然環境を有しています。その恵みを受けて、人々の生活及び生業の風景が、文化的景観として古くから維持され、豊かな暮らしと住まいの空間が広がっています。

（3） 本市の地域資源と特性

本市は、湖上の交通路と陸上交通路の要衝地として発展し、各時代の重層的で多様な歴史文化が現在のまちの趣や品格を形成しています。

戦国時代に楽市楽座令が布かれた地域として、古くから商人の往来があり、本市は、外から多くの人々を受け入れてきた長い歴史と、各地からの物資や情報が集積する地としての性格を有しています。また、本市は、外から人・物・情報を受け入れるだけではなく、江戸時代から他国で商いを行う（行商、出店）、旅行者としての長い歴史も有しています。

本市には、琵琶湖の豊かな水及び土壌のもとで長年受け継がれてきた伝統野菜や湖魚を使った伝統的な郷土料理、市内各地で様々に発展してきた集落の生活文化、火祭りをはじめとした特色ある祭礼及び年中行事、内湖、湖上交通等に支えられたヨシ製品などの産業・生業が、暮らしの中に脈々と息づいています。

また、八幡商人の倫理及び道徳をはじめ、ウィリアム・メレル・ヴォーリズの活動にも見られる「社会貢献」の精神風土が現在も大切に受け継がれています。

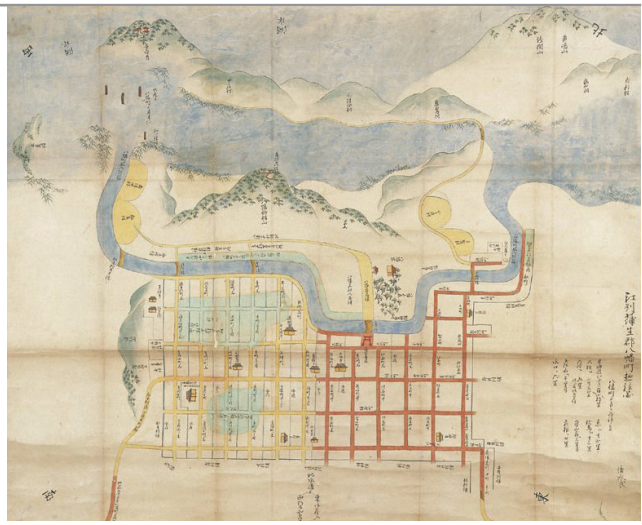
安土城跡

ヴォーリズ記念館

①歴史・文化資源

●八幡商人

織田信長及び豊臣秀次の時代には、国際商業都市として世界との経済的・文化的交流が盛んに行われ、その後も「売り手よし、買い手よし、世間よし」の「三方よし」の理念のもと、本市を本拠地として世界に雄飛した八幡商人を生み出した歴史があります。


八幡町絵図

八幡商人は、自らの才覚を頼りに活動の場を外に求め、遠国とも交易を行い活躍しました。彼らは天秤棒1本を担い、又は隊商を形成し、八幡にある本宅・本店から全国行商に出かけ、新しい商いを独力で開拓していきました。

本店では、全国各地から集められた情報の分析や的確な営業指針、社員教育等が行われました。八幡は「財務」、「情報」、「教育」の3つの本社機能を備えた本店町として位置づけられ、地域社会に対して大きな影響力を持っていました。

今日に受け継がれている八幡商人の家訓には、例えば、以下のものがあります。

「先義後利栄」（西川利右衛門家 家訓）
利益追求を後にし、人間としての務めを先にすることが商売繁盛につながる

「吾、即ち先祖の手代なり」（伴蒿蹊家 家訓）
店や資本はご先祖からの預かりものであり、その立場も先祖の苦労による賜物であるから、奢ることなくその務めを果たすようにという戒め

●寺院・神社

本市は、市民1人当たりの寺院数が全国でも多い地域です。また、神社は、まち又はむらの祭礼や年中行事などを通じて、今も地域の人々の生活に密接に関わっています。これらの寺院・神社が市内各所に立地し、人々の信仰を集めていることも本市の特徴を示すものです。

寺院は、滋賀県が所轄する宗教法人のうち、市内の仏教系宗教法人が208法人（平成30年度（2018））ですが、近江八幡市郷土史会の調査において、市内に立地する寺院は219か寺にのぼります。開創年代は、不明を除いて中世とする寺院が比較的多くみられます。

神社は、滋賀県が所轄する宗教法人のうち、市内の神道系宗教法人が86法人（平成30年度（2018））ですが、近江八幡市郷土史会が調査した市内に立地する神社（本社及び境外社）は146社となります。創祀年代は、不明を除いて、古くは古代（飛鳥又は奈良時代）から、新しいものでは現在（昭和）の創建に至るまで様々となっています。

滋賀県（近江）、とりわけ本市を含む東近江地域は、日本で最も多くの聖徳太子に関係する歴史文化遺産が伝えられているところです。本市の社寺には聖徳太子が開いたということが、現在もなお語られています。歴史的な書物に記されたものだけでなく、近江の風土の中で人々が創造･伝承し、今も生活の中に溶け込み、近江独自の聖徳太子にまつわる文化が残っています。

●西国三十一番札所「長命寺」・三十二番札所「観音正寺」

求道者として信仰されている観音菩薩を祀る、2府5県にまたがる33か所の寺院を西国三十三所といいます。全ての寺を巡り、祈りを捧げることで、優しさ・心遣い・勤勉さといった心のありようを身に着け、穏やかに送る充実した人生とその結果として極楽往生ができると信じられています。

本市は、西国三十三所巡礼の聖地である観音霊場の二霊場を有しています。古くから市域外からも多くの参詣者が訪れた西国三十一番札所の観音霊場である長命寺及び繖山にある西国三十二番札所の観音正寺は、2府5県にまたがる日本遺産「1300年つづく日本の終活の旅～西国三十三所観音巡礼～」（令和元（2019）年認定）の構成資産（6資産）に位置づけられています。

観音正寺

●城・城下町

本市には、国の史跡で日本五大山城の1つである観音寺城跡（「日本100名城」認定）、天下布武の拠点として織田信長が築いた国の特別史跡安土城跡（「日本100名城」認定）及び豊臣秀次が築城した八幡山城（「続日本100名城」認定）があります。いずれも廃城となりましたが、城が持っていた経済的機能は、次の城・城下町に移されました。

── 観音寺城・城下町

天文18（1549）年に、六角氏が観音寺城の城下町にあった石寺の新市興隆のため楽市令を発布しました。さらに琵琶湖の湖上交通に対して、常楽寺城を構え、常楽寺港の経営にもあたりました。

── 安土城・城下町

天正4（1576）年に、織田信長は安土山に、日本の歴史が経験したことのない壮大な城を築かせました。同時に楽市楽座が開かれ、安土は政治・経済における日本の中心となりました。街道を通る商人は、安土城下に立ち寄ることが義務付けられていました。

── 八幡山城・城下町

本能寺の変により城主を失った安土城下の住民は、八幡山下の城下町に引き移されました。

天正13（1585）年に、豊臣秀次が八幡山上に天守を、山下に縦12筋、横4筋の城下町を建設しました。八幡堀は、琵琶湖の水運を利用した物資の運搬用に開削されたものです。

翌天正14（1586）年に発給された「八幡山下町中掟書」は、楽市令などを「安土山下町中掟書」から引き継ぐとともに、湖上船舶の寄港、商人の寄宿の強制、市の集中の強制等の物流・経済両面での町民の優遇・保護を明文化し、人、物及び情報を当地に集積させることで、有能な商人を輩出する経済都市への礎を築きました。

●歴史的町なみ・町家

本市には、八幡商人の発展の礎となった町家を中心とした歴史的都市空間が形成されています。昭和40年代からの八幡堀（八幡川）の修景保存運動を引き継ぎながら、平成３（1991）年にはかつての八幡商人の屋敷が居並ぶ新町・永原町・八幡堀の町なみが、滋賀県で初めて重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。

現在、町家や八幡堀は、宿泊施設、飲食店、映画撮影のロケ地等として有効活用されています。

●街道・古道・港

古くから交通の要衝であった本市では、八風街道、中山道、朝鮮人街道及び長命寺道等の街道・古道が通り、街道沿いには、独自の町なみが形成されています。

古代より琵琶湖水運が機内への荷物輸送に重要な役割を果たしており、多くの浦（港）が整備されました。現在も市内の随所にかつての港跡が残されています。

また、本市には、江戸と京都を結ぶ幹線であった東山道（中山道）及び朝鮮通信使が通った朝鮮人街道を核として、街道筋に存在する道標、祠、常夜灯等の石造物等の文化財があります。また、八幡町の本願寺八幡別院には、ユネスコ「世界の記憶」『朝鮮通信使に関する記録』（平成28（2016）年登録）の歴史的資産の一つである通信使従事官から贈られた「李邦彦詩書」が残されています。

●伝統文化（行事・祭事）

左義長まつり、八幡まつり及び篠田の花火に代表され、国の無形民俗文化財に選択された「近江八幡の火祭り」や、沙沙貴まつりなどの長い伝統を誇るまつりが、市内各地で開催されています。これらの伝統文化は古くから伝わり、保存継承されています。

八幡堀［初夏］

町なみ

左義長まつり

●豊かな自然環境など地域の特性を背景とした食文化

琵琶湖及びその周りに広がる田畑では、豊かな水、土壌等の自然の恵みにより、近江米をはじめ北之庄菜、豊浦ねぎ等の農産物、近江牛及び琵琶湖・沖島の湖魚など様々な食材に恵まれ、それらを活かした古くから伝わる調理方法が継承されています。

また、滋賀県無形民俗文化財に指定されている「丁稚羊羹」、「赤こんにゃく」等の個性あふれる食文化が残っているほか、近年における菓子･スイーツ分野の新たな展開など、いつの時代においても魅力的な食文化をもっています。

●ヴォーリズ建築

明治38（1905）年に、滋賀県立商業学校の英語教師として来幡し、伝道、教育、医療、出版等の多彩な社会事業を展開したウィリアム・メレル・ヴォーリズは、「近江八幡は世界の中心である。」との信念のもと、終生近江八幡を離れることなく暮らし、建築設計に才能を発揮しました。

「建築の風格は人間の人格と同じく、その外見よりもむしろ内容にある。」と考える彼が残した近代建築群は、八幡商人の町なみに今も数多く保存され、重要伝統的建造物群保存地区の近くに多く見ることができます。

●白雲館

明治10（1877）年に、八幡商人が子弟の教育のために資金を出して建てたのが八幡東学校（現白雲館）で、ヴォーリズ来幡前に、大工が西洋建築の要素を取り入れて建てた建築物です。学校として使用された後は、役所、信用金庫等に転用され、平成６（1994）年に建設当時の姿に復元されました。

丁稚羊羹

ヴォーリズ建築｜ハイド記念館

白雲館

②自然環境

●大中の湖干拓地をはじめとした豊かな農用地の田園景観

弥生時代の農耕集落「大中の湖南遺跡」に見られるように古くから農業を中心に栄えてきた歴史があり、水稲に代表される農業は現在も本市の基幹産業で、滋賀県有数の中核農業地域となっています。市街地を取り囲むように農用地が存在し、美しい田園景観が形成されています。

●農業や生活に欠かせない豊富な水源

西の湖を含め、琵琶湖に流れ込む日野川、長命寺川、白鳥川等の一級河川が平野内に豊富な水を供給し、浅小井町、安土町常楽寺、金剛寺町等の各地域に湧水も見られるなど、多様な水環境が形成されています。

●琵琶湖・西の湖・八幡堀等の水辺の景観

琵琶湖をはじめとして、西の湖、長命寺川、八幡堀及びその周辺のヨシ地を含む「近江八幡の水郷」とそれを巡る生業の風景は、平成18（2006）年に文化財保護法に基づく重要文化的景観の全国第1号として国の選定を受けています。この水郷地帯「西の湖・長命寺川」は、平成20（2008）年にラムサール条約湿地として登録されました。「人と自然が織りなす日本の風景百選」、「関西自然に親しむ風景百選」、「琵琶湖八景」、日本遺産「琵琶湖とその水辺景観－祈りと暮らしの水遺産」（平成27（2015）年認定）等にも選定され、雄大な自然景観が形成されています。

●日本で唯一湖に人が暮らす島「沖島」

沖島は、琵琶湖に浮かぶ最大の島であるとともに、淡水湖内で集落を形成する島としては日本では唯一であり、世界でも希少な島です。恵まれた自然の中で漁業が営まれ、琵琶湖の水産業の拠点にもなっています。本市には、鮒ずしを始めとした、琵琶湖で獲れた湖魚を使った食文化が今日まで受け継がれています。また、島の生活道路である「ホンミチ」は、平成18（2006）年に水産庁の「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選」に選定されており、昔ながらの町なみを今に残しています。

沖島全景

●森・里・湖（うみ）に育まれる漁業と農業が織りなす「琵琶湖システム」

琵琶湖と共生する農林水産業（琵琶湖システム）は、水田営農との深い関わりの中で発展してきた伝統的な内水面漁業がその中核となっています。湖魚を介して漁業と農業がつながる同資源循環型システムは、1000年以上にわたって受け継がれてきたものであり、本市の沖島の伝統的漁業や漁村の暮らしもその一部です。琵琶湖システムは、令和元（2019）年２月に「日本農業遺産」に認定され、令和４（2022）年7月にＦＡＯ（国連食糧農業機関）の「世界農業遺産」にも認定されました。

水郷めぐり

安土城跡から見た西の湖と八幡山

③教育・まちづくり・市民性

●地域に根ざした特色ある教育

郷土に愛着と誇りをもつ子どもを育成するために、地域学習及び伝統文化を学ぶ機会を取り入れるなど地域の文化、環境、歴史等に関する学習・研究を行うふるさと学習を実施しています。また、地域の方々に支えられて実施している職場体験など、地域に根ざした特色のある教育を行っています。

●国際的視野に立った交流と多文化共生

夫婦都市、姉妹都市等との国際親善交流を積極的に推進し、社会全般に渡る国際化の進展に対応した人材の育成及び本市の振興に力を入れています。また、外国人住民とともに暮らしやすく豊かな地域文化を形成する多文化共生のまちづくりを推進しています。

●戦後のまちづくり

近江八幡のまちづくりは、1970年前後の八幡堀の埋め立て計画をきっかけに、近江八幡青年会議所は「堀は埋めた瞬間から後悔が始まる。」をスローガンに掲げ、八幡堀保存修景運動を始めました。昭和50（1975）年には「住むに値し、訪れるのに値する魅力と生気ある街」を提唱し、草木が生い茂った八幡堀を清掃しました。同年、結成されたよみがえる近江八幡の会では、近江八幡の魅力を、第一に「自然の美しさ」、第二に「近江商人の残した文化的・精神的遺産」と位置づけました。

また、近江八幡青年会議所及びよみがえる近江八幡の会は、『商業博物館構想』を策定し、まちの目標像を「死に甲斐のあるまち」、「知的再生産のまち」及び「パーソナリティの復活」に定め、物心両面からまちづくりを展開していきました。まちが本来宿している「教育と知的再生産の町」としての機能に基づき、近江商人のモラル及び倫理観を学びに訪れるようなまちとすることを目指しました。

ふるさと学習

わたしたちの近江八幡

●市民活動や「自治」の精神

本市の学区は、10学区に区分されます。本市では、学区単位で「まちづくり協議会」が設置され、地域の特色あるまちづくりが市民主体でコミュニティセンターを中心に実践されています。

学区まちづくり協議会は、自治会を筆頭に、スポーツ振興会、文化振興会、社会福祉協議会、子ども会、老人会その他の各種団体を構成員としてそれぞれが連携及び協働することにより更に相乗効果のあるまちづくりに取り組んでいます。住民自らが自主的な活動を展開することにより、生きがいの創出や地域への愛着及び誇りが深まり、住んでいて良かったと思え、活力あふれる地域の創造にもつながっています。

●八幡商人やヴォーリズから受け継いできた「社会貢献」の精神

ワーキンググループ

八幡商人の経営理念には、自らの利益は社会全体の幸福につながらなければならないといういわゆる「三方よし」の精神があります。また、ヴォーリズは、社会教育、出版、医療、学校教育等の社会貢献活動を経済的に支えるために、建築設計会社、製薬会社等の企業活動を行いました。これらの社会貢献の精神は現在も地域住民に継承されています。

八幡商人の町なみ（新町通り）

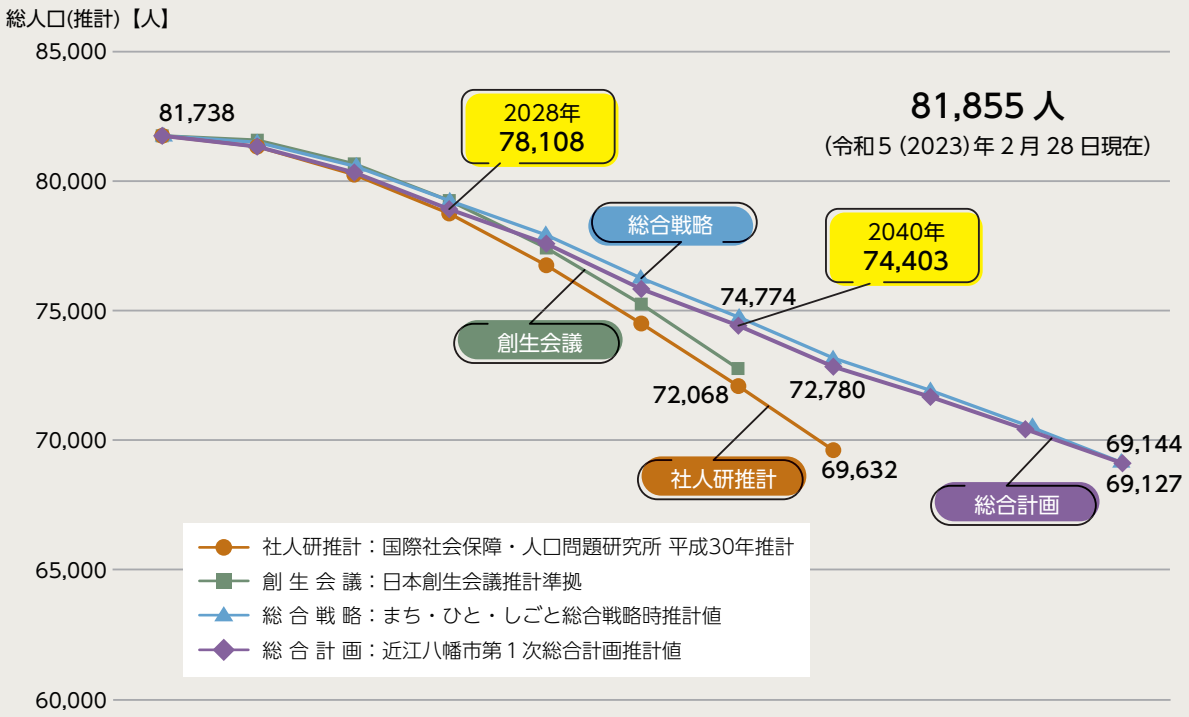
（4）本市の基礎データ

①人口

本市の人口は、令和５（2023）年２月28日現在、81,855人です。

平成22（2010）年から平成27（2015）年に掛けては、本市の人口は、微減傾向にありました。20～30歳代が少ない年齢構成上、出生数の大幅な増加は見込みにくく、今後少子高齢・人口減少社会は本市においても急速に進展していくと考えられ、近江八幡市第１次総合計画期間（平成31（2019）～平成40（2028）年度）中に、人口は８万人を下回り、高齢化率は３割近くに達すると見込まれています。

図表　本市の将来推計人口



(年)

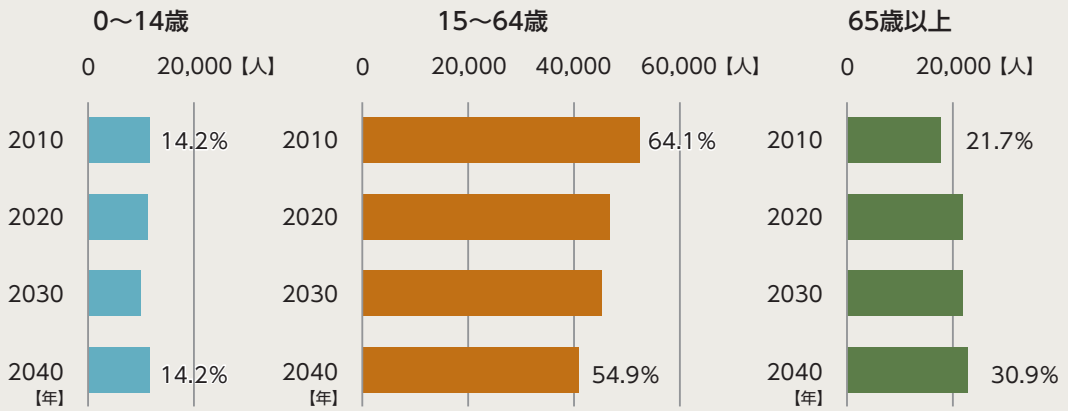
	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
● 社人研推計	81,738	81,312	80,282	78,718	76,757	74,498	72,068	69,632			
■ 創生会議	81,738	81,609	80,690	79,258	77,426	75,250	72,780				
▲ 総合戦略	81,738	81,493	80,615	79,273	77,969	76,276	74,774	73,170	71,905	70,564	69,144
◆ 総合計画	81,738	81,312	80,353	78,920	77,567	75,879	74,403	72,849	71,661	70,428	69,127

注：「創生会議」及び「総合戦略」は平成 22（2010）年まで、「社人研推計」及び「総合計画」は平成 27（2015）年までの実績値、以降は推計値

資料：国立社会保障・人口問題研究所（平成 30（2018）年３月推計）、実績値は総務省「国勢調査」

出典：『近江八幡市第1次総合計画』（近江八幡市、平成 31（2019）年３月）

図表　年齢3区分推計人口の推移



②産業構造

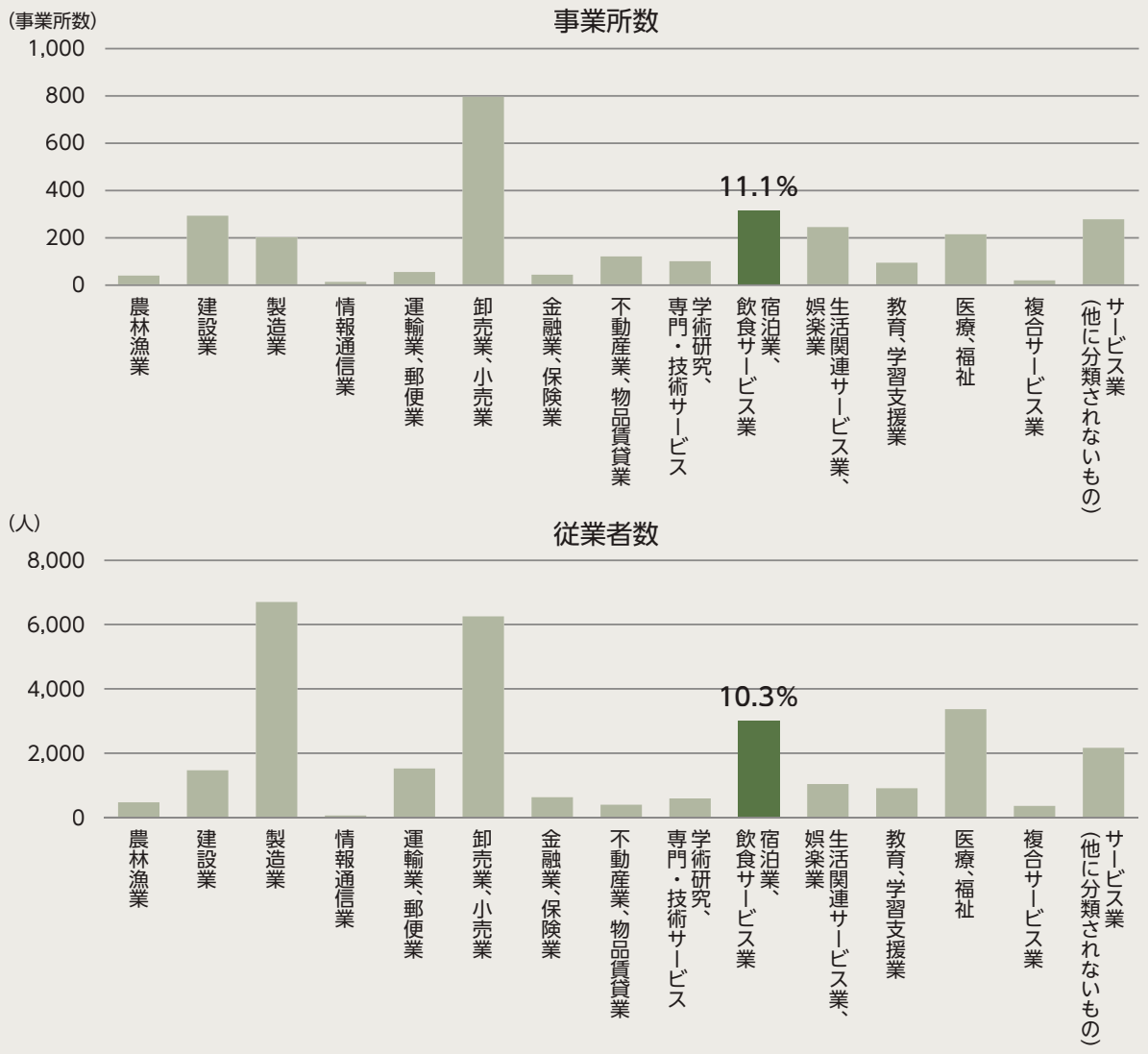
本市の「宿泊業、飲食サービス業」（観光客向けではないものを含む。）について、事業所数は314者で全産業の中で2番目に多く11.1%を占めます。従業者数は2,994人で全産業の中で４番目に多く10.3%を占めます。

図表　産業別事業所数、従業者数、付加価値額

産業区分		事業所数	従業者数（人）	付加価値額（百万円）
第一次産業	農林漁業	40	478	851
第二次産業	建設業	294	1,471	6,991
	製造業	203	6,704	47,640
第三次産業	情報通信業	14	67	499
	運輸業、郵便業	56	1,525	7,310
	卸売業、小売業	796	6,252	27,993
	金融業、保険業	44	629	6,392
	不動産業、物品賃貸業	121	405	2,113
	学術研究、専門・技術サービス	101	598	2,952
	宿泊業、飲食サービス業	314	2,994	5,828
	生活関連サービス業、娯楽業	245	1,039	2,478
	教育、学習支援業	95	908	2,177
	医療、福祉	215	3,371	12,184
	複合サービス業	20	366	3,488
	サービス業（他に分類されないもの）	279	2,171	6,242
全産業		2,837	28,978	135,147

資料：「平成 28 年度 経済センサス 活動調査」（総務省・経済産業省）

図表　本市の将来推計人口



資料：「平成28年度 経済センサス 活動調査」（総務省・経済産業省）

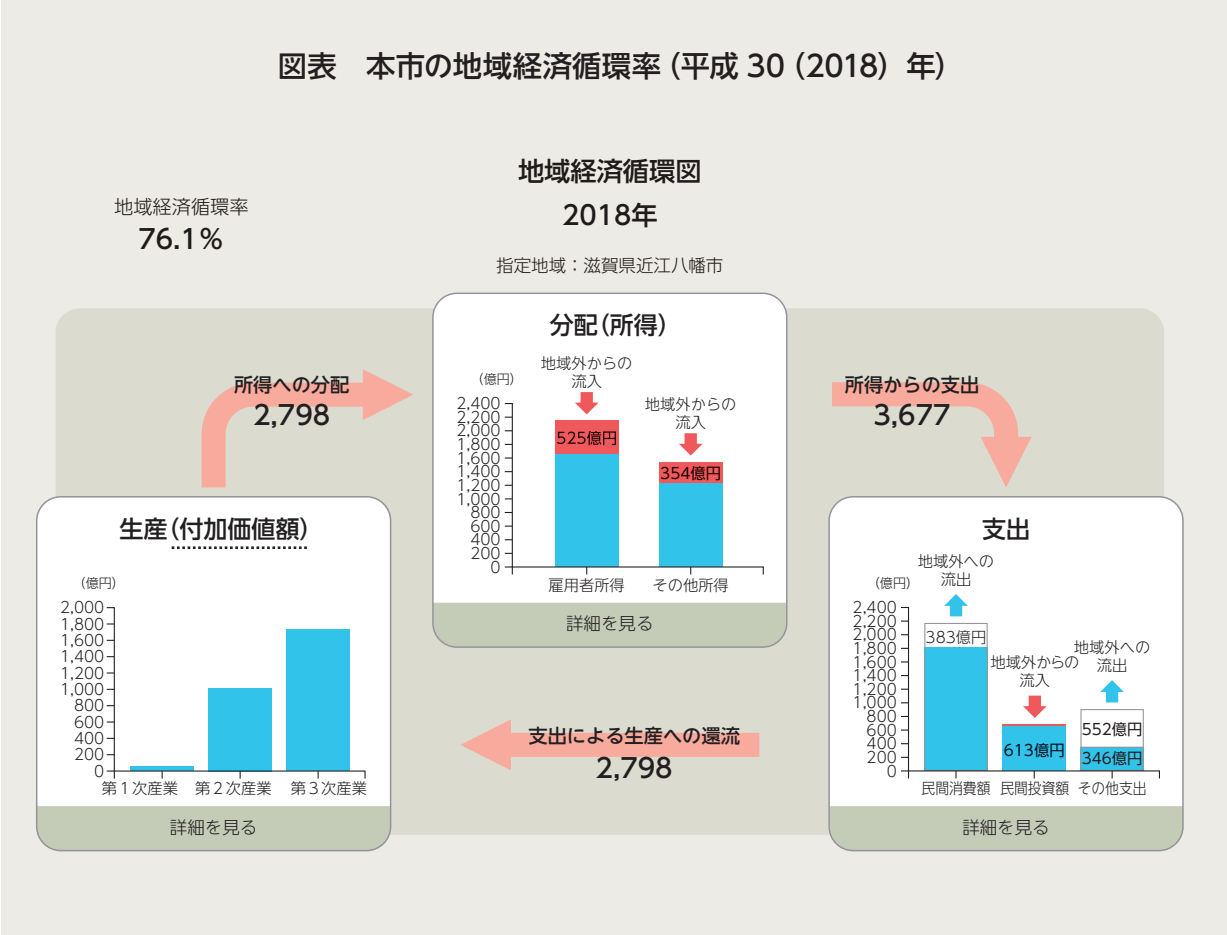
③地域経済循環率

本市の地域経済循環率は、平成30（2018）年は76.1％です。本市は、第三次産業の比重が高く、また、市民の所得構造については、他市町で就業している市民が多いため、市外からの流入所得に依存している状態です。

一方で、消費行動を示す支出については、市外での消費が多く、また、市外から本市への投資が少ない状態であることを示しています。

【用語】
地域経済循環率…生産（付加価値額）を分配（所得）で除した値。

図表　本市の地域経済循環率（平成 30（2018）年）



【出典】
環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」
（株式会社価値総合研究所（日本政策投資銀行グループ）受託作成）
地域経済循環分析　http：／／www.env.go.jp／policy／circulation／index.html
【注記】
本データの詳細な分析方法については、以下URLを参照
http：／／www.vmi.co.jp／reca／
「地域経済循環率」とは、生産（付加価値額）を分配（所得）で除した値であり、地域経済の自立度を示している（値が低いほど他地域から流入する所得に対する依存度が高い。）。
「雇用者所得」とは、主に労働者が労働の対価として得る賃金、給料等をいう。
「その他所得」とは、財産所得、企業所得、交付税、社会保障給付、補助金等の雇用者所得以外の所得により構成される所得をいう。
「その他支出」とは、「政府支出」＋「地域内産業の移輸出-移輸入」により構成される支出をいう。
例えば、移輸入が移輸出を大きく上回り、その差が政府支出額を上回る場合（域外からの財・サービスの購入を通じた所得流出額が政府支出額よりも大きい場合）は、「その他支出」の金額がマイナスとなる。
「支出流出入率」とは、地域内に支出された金額に対する地域外から流入・地域外に流出した金額の割合をいい、プラスの値は地域外からの流入、マイナスの値は地域外への流出を示す。
我が国の国民経済計算体系は、平成27年国民経済計算より1993SNAから2008SNAに改定されたため、2015年地域経済循環分析用データも2008SNAで構築した。これ伴い、2010年及び2013年データについても、時系列比較を可能とするため、2008SNAで再構築をしている。
本データは国民経済計算、県民経済計算、国勢調査、経済センサス等のデータを用いて、全国の市町村のデータを統一的な方法で作成している。
国民経済計算や県民経済計算は、精度向上を目的に推計方法については絶えず見直しを行っている関係上、随時、過去に遡って改定がなされるため、本データのデータ更新時には、これまで公開していた数値から変化する場合がある。

出典：地域経済分析システム（RESAS）